

安宅船原寸大輪郭展示整備（長浜城跡・静岡県沼津市）

1. 長浜城について

- ・長浜城は、戦国時代関東一円を治めた北条氏の水軍拠点。
- ・築城は 15 世紀後半頃と推定されているが、本格的に使われるようになったのは天正 8 年（1580）の武田・北条両氏水軍による駿河湾海戦の頃からである。
- ・天正 18 年（1590）の豊臣秀吉の小田原攻めにより、長浜城は再び緊張状態に置かれたが、北条方の小田原籠城策に呼応し、水軍の主力も小田原の川岸に集結したことから、長浜城は水軍基地としての機能を失い、葦山開城と共に廃城となった。

2. 安宅船（あたけぶね）について

- ・安宅船は、室町時代後期から江戸時代初期にかけて日本で広く用いられた軍船の一種。
- ・大型で安定感のある船体に加え、楯板と呼ばれる装甲板が船体を覆い、楯板には数多くの狭間が設けられていた。
- ・北条水軍には、安宅船だけでも 10 隻はあったと伝えられる。



安宅船原寸大輪郭展示全景（俯瞰） 安宅船輪郭サイズ：L=24.3m、W=9.7m



安宅船原寸大輪郭展示全景（近景）